

「リスペクト・アザース」

2022・10・7 校長 重枝一郎

「リスペクト アザース」という題で、当時、神奈川県鎌倉市立御成中学校3年の坪井 洸（つばい こう）君が、全国中学生人権作文コンテストで、法務大臣賞を受賞しています。その後、様々な学校での人権教育の授業の中でこの作品は教材として扱われるようになりました。

本校では、「大切なひとり」というシンボルワードがあります。私は、この「リスペクト・アザース」という作文の本質と本校の「大切なひとり」の考えの本質と同質であると思いました。作文を紹介します。

僕は、日本人の両親を持ちながら、アメリカのサンディエゴで生まれて、十歳半まで生活し、地元のデイケア（保育園）、プレスクール（幼稚園）、小学校に通った。その中で出会った先生たちが何度も口にした『respect others（リスペクト・アザース）』という言葉は、今も僕の行動や考え方に大きな影響を与えている。

サンディエゴは、ロサンゼルス以南にあり、メキシコの国境から一時間程度だったので、土地柄のせいか、クラスには、肌の色も髪の毛の色も本当にいろいろな人種の人が入っていた。僕が物心ついたときには、周囲にいろいろな人種の人たちがいるのが当たり前の状況だったので、自分がまわりの人と違っていることも当然だと思っていたし、それに対して深く考えることもなかったように思う。どこの国でも同じだと思うが、集団生活が始まると、誰かが意地悪をしたとか、誰かが誰かにいじめられたとか、いわゆる人間関係のトラブルが起こってくる。そんなとき、先生たちは必ず『リスペクト・アザース』と言い、当事者に反省を促した。『リスペクト』の意味もはっきりわからない保育園や幼稚園の頃から、ことあるごとに繰り返し叩き込まれた。日本語にすると、「他の人のことを尊重しなさい」というような意味なのだが、今思うと「意地悪しないで、みんな仲良くしなさい」とか、「いじめはダメ」というそのときの行動を注意するのではなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題にしていることになる。また、この言葉は僕が入っていたリトルリーグの監督やコーチもよく使っていた。選抜テストがない地元のリトルリーグでは、上手い選手と上手くない選手が混合して十二人でチームとして試合に臨まなくてはならなかった。上手くない選手がフライをポロリと捕りそこなったとき、チーム全体が「おい、この下手くそ」と怒鳴りたくなる場面で、監督やコーチは『リスペクト・アザース』と言った。やる気がなくてエラーをするのはもったいの他であるが、やる気があっても上手くできない選手はいるのである。この場合は、そこをわかってやれという意味だと思っている。実際、当時初心者だった僕は、この言葉を聞いて救われる気持ちになり、もっと上手くなるようにうんと頑張り、シーズン最後にはチームに少しは貢献できるようになった。その後、僕は日本の小学校に通い始め

た。周囲のみんなのおかげで生活にはすぐに慣れたが、同時に大きなカルチャーショックも受けた。一番驚いたことは、みんなが他の人と大きく違わないように、なるべく同じようになるように非常に気を遣っているように見えたことである。他人よりうまくいかないから目立たないようにしているのではなく、他人よりうまくできても目立たないようにしているように感じた。僕は最初のうち、そのノリがわからず今までどおり、自分が上手く出来たことを周りの人にも伝えていたら、「それは自慢だ」と言われて、なんとも悲しい気持ちになった。また、友達同士で相手の気持ちになれば絶対言えないような侮辱するようなひどい言葉を言い合っている、『冗談』と言ってうやむやにしていることにも驚いた。僕がよくわからない世界だった。僕が叩き込まれていた『リスペクト・アザース』の世界はここにはなかった。僕の限られた経験の話になるが、アメリカ（サンディエゴ）ではなぜそんなに『リスペクト・アザース』を子どもの頃から叩きこんでいるのだろうか。それは、アメリカ社会がつい最近までひどい人種差別などを行ってきたことの反省からかもしれない。居住地区を制限したり、公園やバスなどの公共の場でも座る場所をわけていたり、差別することが当たり前で、一般人が差別したりされたりすることに何の疑問を持たずに時代が流れていた過去がある。そんな過ちをこれから先に繰り返さないように、子ども達に叩き込んだり、またそうすることによって、大人も自分自身を戒めているのかもしれない。僕は日本でももっと、『リスペクト・アザース』が浸透していけばいいと思う。日本は表面上差別のない社会なので、必要ないと思われるかもしれない。しかし、これこそが人権を考える上での基本だと思う。人権尊重の社会を作っていくのは、僕たちひとりひとりの考え方によるからだ。同じ人間は一人もいない。人と違うということがまたその人の個性である。違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していくことなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う。

「廊下を走らない」という否定形は、脳科学的に人間の脳は、能動的に働かないと言います。だから、「廊下は歩こう」という言い方になります。肯定形は脳を能動的にするからです。よく公共のトイレのポスターに「トイレをいつもきれいに使っていただきありがとうございます」という言葉を目にします。同様の意味があるのです。となると、みなさんは「差別をしてはいけない」という否定形の言葉をどのような言葉にしますか？「（考えてみよう）」。

最後に、「AC ジャパンの寛容ラップ」のコマーシャルを見たことありますか？私は、とても胸に刺さったCMでした。今からみんなで見てみましょう。

「♪ひとり一人にリスペクト！」「♪たたくより たたえ合おう」イイね。

まわりの人、もの、ことすべて「リスペクト・アザース」そして、自分自身も大切に「リスペクト・ユアセルフ」も・・・